

バブソン型アントレプレナーと今後の大学教育への導入

：アントレプレナー養成の構想と実践に関わる定量分析

大驛潤 東京理科大学大学院経営学研究科教授

論旨

本研究では、アントレプレナーという視点から、日本のアントレプレナーの現状を、バブソン大学で実際に、私が修了した「アントレプレナー養成コース」の経験と比較し、イノベーティブなグローバルリーダーとして活躍可能なアントレプレナーの養成が、我が国で喫緊の問題であることを指摘する。

それに加え、その問題に関する傾向と処方箋を定量分析に基づき提示する。

では、なぜイノベーティブなグローバルリーダーとしてのアントレプレナーの養成が大学で必要なのか。

2014年、日本政府の「日本再興戦略（新成長戦略改訂版）」において、開業率の倍増計画が示され、イノベーションの担い手となる『起業家の教育』への関心がわが国でも、急速に高まっている現況がある。

イノベーションとは、「製品・サービスを社会に提供して、富の総量を増加させるものである」とすれば（J. A. Schumpeter）、そのイノベーションの中軸には知識がある。最高学府である大学は、その知識を創造する機関である。また同時に産業部門に、知識を変換する主体である。その意味で「大学」は、知識を創造・変換するアントレプレナー人材を涵養し、社会に供給する場であると言えよう。このコンテキストにおいて、大学における『アントレプレナーの教育』の重要性がより理解される

本研究の目的は、グローバルな市場・競争環境下において自ら事業化（起業）に参画できるスキルとマインドを持った起業家（シリアル・アントレプレナー）のみならず、起業家のアイデアを具現化する実務家、事業化後のシステム化が必要な成長期の管理者、等多様なアントレプレナーも包含し、包括的にアントレプレナーを考察する。

具体的に以下について言及する。

- 1) アメリカにおけるアントレプレナー人材育成システムの概要
- 2) アメリカのバブソン型アントレプレナー人材育成システムの日本への導入に伴う
問題点の提示
- 3) 上記コンテキストの日米比較分析から、今後のアントレプレナー人材育成の問題点を
抽出し、アントレプレナー人材養成の構想と実践に関わる定量分析を行ない、対策を
示す。